

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ意見まとめ

地区	蒲郡南地区	回数	第4回
日時	平成30年12月16日（日） 午後1時30分～午後4時30分		
会場	蒲郡中学校 図書室	参加者数	28名

1. 評価項目及び評価結果に関する意見

②学校教育環境の適正化

＜エ＞適切な学校規模が維持されているか。

国の基準（12学級以上18学級以下）も30年後には変わってくる可能性もある。まずは、蒲郡市としての適正な規模についての考え方を持つ必要がある。

- ・ 国の基準（12学級以上18学級以下）も30年後には変わってくる可能性もある。蒲郡市としての適正な規模についての考え方を持つ必要がある。

客観的に検討することも重要だが、一方で過去の経緯や事情を踏まえて検討を進めることも大事である。もし、児童数の減少に応じて小学校を統合することになるのであれば、小学校を増やす前の状態に戻すのがよい。具体的には、竹島小学校と中央小学校を南部小学校に統合し、旧蒲郡中学校の学区エリアに戻せばよいと思う。

- ・ 子どもの数の減少に応じて見直すならば、子どもの増加に応じて学校を増やす前の状況に戻したらよいのではないかと。具体的には、竹島小学校及び中央小学校を南部小学校に統合し、旧蒲郡中学校の学区エリアに戻したらどうか。
- ・ 客観的な検討も重要だが、一方で過去の経緯や事情を踏まえて検討を進めることも大事である。

竹島小学校と南部小学校については、適正な学校規模を考えると、どちらかの敷地に機能を集合するとよいと思うが、通学距離や避難所までの距離などを考慮すると、竹島小学校に機能を集合した方が蒲郡中学校区全体としての配置のバランスがよいだろう。

- ・ 竹島小学校と南部小学校は比較的距離も近い。適正な学校規模を考えると、どちらかの敷地に機能を集合してもよいのではないかと。
- ・ 子どもの通学距離や避難所までの距離などを考慮すると、南部小学校を竹島小学校に統合した方が全体的な施設配置のバランスとしてはよい。

＜カ＞小学生の通学しやすさは保たれているか。

小学校の機能を集合することで、通学距離が今までより長くなり必ず不便になる児童が出てくる。国の基準では問題がないということだが、現状より不便になる児童がいるなかで「○」と評価するのは、違和感がある。

- ・ 小学生の通学のしやすさが保たれるのかということだが、通学距離が基準の4kmで考

えても影響はなく、さらに1kmに絞っても差がわずかということだが、今までと比較してどうかということだと思う。これまで学校が近かった児童が不便になるということは起きるだろう。必ず困る児童が起きるということを考えると、簡単に基準の数値では保てているから「○」という評価はいかがなものだろうか。

- ・ 通学のしやすさは現状維持でなく、一長一短という評価で「○」としているのかと思うが、そもそも一長一短の評価に「○」の印はおかしいのではないか。
- ・ 南部小学校と竹島小学校が統合されることにより、学校までの距離が現状より長くなる児童が生じるので、A～B'案で「○」とあるが、「現状維持」ではなく「一長一短（短くなる児童も長くなる児童もいる）」ということでの「○」であろう。不便が生じる児童がいる以上「○」と評価するには違和感がある。

小学校はすぐに統合するということではないだろう。将来的に小学校に通わせる保護者は、その時点で立地も含めた学校の状況を踏まえて、居住地をどうするのかを考えるだろう。現在と比較して不便が生じるかどうかという視点は必要ないのではないか。

- ・ すぐに統合ということではないので、将来的に児童を持つ親は、その時点での小学校の場所や状況を考えて居住地を考えるだろう。将来通学するであろう当事者にとっては、現在の通学のしやすさがどうなるのかは関係がないことから、今と比較して不便が生じるかどうかなどは考える必要はないかもしれない。

竹島小学校周辺は新しい戸建が目立つし、南部小学校周辺にも新しいマンションが建設されている。子どもの通学のことを見据えて、各小学校の周辺に引っ越してくる家庭も多いだろう。単純に人口の自然増減だけでなく、まちの変化も考慮した上で施設配置の検討が必要だ。

- ・ 人口の自然増減だけでなく、まちの変化も考えた上で施設配置を検討しているのだろうか。竹島小学校周辺も新しい戸建が目立つし、南部小学校周辺でも新たにマンションが建設されている。子どもをその学校に通わせることを見据えて引っ越してくるご家庭も多いだろう。統合について通学のしやすさが保たれているといった評価は、そう簡単にはできないのではないのではないだろうか。

南部小学校周辺は道路が狭く、歩道もないなど、交通安全の視点で「通学しやすさ」に問題がある。そういった周辺の道路環境も評価に反映してほしい。竹島小学校が南部小学校に統合するA案、A'案は評価を「○」から「△」にするのが適当である。

- ・ 南部小学校の周りは道路が狭く、歩道もないなど、交通安全の視点で「通学しやすさ」に問題がある。そういった周辺の道路環境も評価に反映すべきである。そのような視点も踏まえると、竹島小学校が南部小学校に統合するA案、A'案は評価が1ランク下がって「△」にするのが適当である。

多少でも通学距離が長くなるのであれば、低学年に対しては防犯面や交通安全面からも配慮が必要である。

- ・ 小学校までの通学距離は現状から大きな変化はないとのことだが、多少でも通学距離が長くなるのであれば、1～2年生の低学年に対しては防犯面や交通安全面からも配慮が必要である。

＜キ＞子ども達と地域とのつながりは強まっているか。

「子ども達の地域とのつながり」を学校と公民館の立地関係だけで評価することに違和感がある。この評価項目のままならば、“地域活動への子どもの参加状況”など実態に即した評価を行ってほしい。あるいは、評価項目を変更して、「学校と公民館の関係性」、あるいは、「子ども達の地域とのつながりが強まる可能性が高まったか」などにしてほしい。

- ・ 「子ども達の地域とのつながり」を学校と公民館の立地関係だけで評価することに違和感がある。地域活動への子どもの参加状況など実態に即した評価を行うか、それが難しいのであれば、評価項目の表現文を「学校と公民館の関係性」を主に変えた方がよい。
- ・ 公民館と小学校が近いというだけで「つながりが強まった」とは言えないので、立地だけをみて評価するのは妥当ではない。
- ・ 「子ども達の地域とのつながり」について、A案、A'案が「△」で、B案、B'案が「◎」となっているが、感覚的にそれほど差が大きいように思う。評価項目の表現文を「学校と公民館の関係性」と変えるならば納得はできる。
- ・ 「子どもたちと地域とのつながりは強まっているか」とあるが、学校と公民館の立地について評価するのであれば、表現として「強まっているか」ではなく「強まる可能性は高まったか」などにする方がよい。

「子ども達の地域とのつながり」が強まるかどうかは、例えば、公民館で行われる文化サークルと小学校の部活動の連携等で交流が深まる可能性はあると思う。立地条件というよりは、施設の運用等ソフト面次第だと思う。

- ・ 「つながりが強まるかどうか」は立地の問題だけではなく、施設の運用のあり方であると思う。
- ・ 公民館で行われる文化サークルと小学校の部活動の連携で交流が深まる可能性があるので、ソフト面の対応になるが、今後も検討してもらいたい。

「子ども達の地域とのつながりが強まるかどうか」で期待したいことは、児童と公民館を利用する高齢者との交流だろう。「①地域での活動・交流の盛り上がり」の視点にあった方が適切ではないだろうか。

- ・ ここで期待することは児童と高齢者（公民館利用者）との交流なので、②学校教育環境の適正化、ではなく①地域での活動・交流の盛り上がり、にある方が適切ではない

か。

③子育てしやすい環境づくり

＜ク＞子育てに関する様々な活動がまとめて行える子育ての拠点ができているか。

評価項目の「子育ての拠点」という表現がわかりにくい。理解しやすい表現にしてほしい。

- ・ 「子育ての拠点」という表現がわかりづらい。市の担当者の説明で、「保育士や教師の視点で隣接することで活動の連携がとりやすいかどうか」という評価内容だと理解したが、そのように表現した方が適切ではないか。

小学校、保育園、児童館の機能が集合していると、子育てはしやすく便利だと思う。子どもたちも保育園から小学校まで同じ場所で過ごせた方が安心感をもつだろう。

- ・ 働く母親にとって、小学校・保育園・児童館が機能的にまとまっていた方が子育てがしやすくて便利な印象がある。
- ・ 子ども達も、保育園から小学校に上がるまで同じ場所で過ごせた方が安心感がある。

将来的には、例えば学校のプールなど現在と同じような施設や設備が必要ではなくなるかもしれない。そうすると現状より敷地に余裕ができ、保育園、児童館、公民館といった施設を集約して整備しやすくなるのではないか。

- ・ 将来的には、例えば屋外プールのあり方についても考え方が変わってきて、現状と同じような施設・設備が必要ではなくなるかもしれない。そうすると現状よりも土地に余裕が生まれて、保育園や児童館、公民館を一体的に整備しやすくなるのではないか。

小学校と保育園の距離を近くすること以上に、質の高い保育環境を提供することの方が重要である。竹島小学校の方が南部小学校の敷地より広く、より良い保育環境を整備しやすいのであればA案が良いだろう。また、東部小学校、東部保育園敷地にも小学校、保育園、公民館、児童クラブの機能を集合させることで、新たな保育園が十分に整備できるのであれば、A'案の方が望ましいと思う。

- ・ 小学校と保育園の距離を近くすること以上に、質の高い保育環境を提供することの方が重要である。竹島小学校の跡地の方が土地が広く、よりよい保育環境を整備しやすいのであればA案が良い。東部小学校・東部保育園跡地にも新たな保育園が十分に整備できるなら、保育園と小学校が一体的に整備できるA'案の方が望ましい。

＜コ＞保育園児や小学生を同時に送迎しやすくなったか。

現状でも保育園と児童クラブがそれほど遠いわけではないので、より近い位置関係にすることを評価する項目は、それほど重要ではないのではないか。

- ・ 現状でも保育園と児童クラブがそれほど遠いわけではないので、より近い位置にすることはそれほど重要ではないのではないか。

公立の保育園だけでなく私立の幼稚園などに通園させている家庭もある。送迎バスがある園もあるため、多様なケースや手段があることを念頭において考える必要があるだろう。

- ・ 公立の保育園だけでなく私立の幼稚園などに通わせている家庭もある。送迎バスで送り迎えしてくれる園もあり、多様なケースがあることを念頭において考える必要がある。

＜サ＞保育園に自動車で送迎しやすくなったか。

南部保育園周辺は道路が狭く、歩道が無かったり、一方通行も多い。周辺道路環境の視点で評価すると、A案、A'案は「◎」ではなく、「○」か「△」にするのが妥当だと思う。

- ・ 南部小学校と同様に、南部保育園の周りも道路が狭く、歩道が無かったり、一方通行が多い。周辺道路環境の視点でみると、A案、A'案は評価を落として「○」か「△」にするのが妥当と思う。

④高齢者のにぎわい

＜ス＞高齢者が活躍できる機会は増えたか。

公民館の利用者はほとんどが高齢者である。今後、さらに高齢化が進めば、公民館を利用する高齢者は増加傾向となることが予想できるため、公民館を減らしてよいのか疑問である。

- ・ 現状は、公民館の利用者はほとんど高齢者である。今後さらに高齢化が進めば、公民館を利用する高齢者は増加傾向となるので、公民館を減らしてよいのか疑問である。

今後、ますます身近な場所に交流拠点となるコミュニティ施設が求められることから、公民館と集会所の役割を再整理し、集会所を公民館のように利用する方法も検討すべきではないか。

- ・ 今後、身近な場所に交流拠点となるコミュニティ施設が求められる。地元所有の施設である集会所を有効活用することが求められる。公民館と集会所の役割を再整理し、集会所の公民館的な利用も考えていくべきではないか。

公民館は、現在、地域組織が指定管理者となって運営しているため、利用頻度や活動内容にばらつきがある。再編を機に施設・設備の質を高めるとともに、より良いサービスを提供することで、有効利用を促進すべきだ。

- ・ 公民館は、現状では地域組織が指定管理者となって運営しているため、利用頻度や活動内容にばらつきがある。今後は再整備を機に施設・設備の質を高めるとともに、よりよいサービスの提供及び有効利用を促進するべきではないか。

＜セ＞高齢者が地域との関わりを持ちやすくなったか。

公民館と他施設との位置関係だけで「高齢者が地域と関わりを持ちやすくなった」ということにはならないので、立地条件のみで評価するのは適切ではないのではないか。

- ・ ＜キ＞と同様に、公民館と小学校が隣接することだけで「地域とかかわりが持ちやすくなった」ということにはならないので、立地条件のみで評価するのは適切ではないのではないかな。

⑤安全の確保（地域防災・利用者の安全）

＜タ＞津波・高潮の想定浸水域に立地している施設が速やかに移転できる配置になっているか。

府相保育園の移転は早急に進めることであり、第一に優先すべきことだと考えている。その視点で原案の中から考えると、すぐに移転可能な南部小学校敷地へ移転するB案、B'案、C案にするしかない。

- ・ 府相保育園の移転は早急に進めることであり、第一に優先すべきことだと考えている。その視点のみで現在の案の中から考えると、すぐに移転可能な南部小学校への移転（B案、B'案、C案）にするしかない。
- ・ 府相保育園の移転は急務であり、他の項目と同様には扱えない。特に重視すべき点だと思う。

＜チ＞災害時の避難所・避難場所は確保されているか。

各案一律で「○」の評価だが、小学校の統合によって避難所・避難場所が十分に確保できない地域も出てくるのではないかな。具体的な場所を想定しながら検討する必要がある。

- ・ 一律で「○」になっているが、小学校の統合によって避難所・避難場所が十分に確保できない場所も出てくるのではないかな。具体的な場所を想定しながら検討する必要がある。

災害時は、指定の小・中学校に避難しなくても、その時近くにある避難場所に逃げるなど、基本はどこに逃げてもよいことになっている。そのため、何らかの避難場所が近隣に確保されているかという視点で評価できていればよい。

- ・ 災害発生時はどこの避難場所に逃げても構わないので、指定の小中学校を前提としなくても、例えば隣の小学校でも構わない。何らかの避難場所が近くに確保されているかどうかという視点で評価すればよい。

竹島小学校の近くには西田川が流れており、災害時の避難路の確保や浸水などの面で不安要素となる。評価が下がらないか。

- ・ 竹島小学校の近くには西田川が流れており、災害時の安全な避難路の確保や浸水などの面で不安要素となり、評価が下がらないか。

⑥利便性の確保

＜ト＞公民館に高齢者が徒歩で利用しやすい配置になっているか。

高齢者が歩いていける場所でコミュニティ機能が必要になってくるため、集会所の有効活用を考えるとともに、公民館との役割分担を見直す必要があるのではないかな。

- ・ 高齢者が歩いていける近所にコミュニティ機能が必要になってくるため、集会所の有効活用を考えるとともに、公民館との役割分担を見直す必要があるのではないかな。

＜ナ＞公民館に駐車場は十分に確保されるか。

評価項目の「公民館に駐車場は十分確保されるのか」の判定のあり方がよく理解できない。学校跡地の活用で公民館に十分な駐車場を確保できるであろう、A案、A'案、B案を「◎」にしているとのことだが、全ての公民館に十分確保される場合のみを「◎」にするべきではないかな。

- ・ 評価項目の「公民館に駐車場は十分確保されるのか」の「◎」、「○」の判定のあり方がよく理解できない。学校跡地の活用で公民館に十分な駐車場を確保できるであろう、A案、A'案、B案を「◎」にしているとのことだが、全ての公民館に十分確保されるのみを「◎」にするべきではないかな。

今後、高齢者の免許証の返納も増えてくると思われる。公民館に必要な駐車場の台数も減ってくるのではないかな。

- ・ 今後、高齢者の免許証の返納も増えてくると思われる。今以上に身近な集会所などに徒歩で訪れる高齢者も増えてくるので、公民館に必要な駐車場の台数も減ってくるのではないかな。

⑦将来負担の縮減

平成 35 年に建替えを行うと仮定して縮減額を算定しているということだが、実際にそれぞれの施設の建替え時期に合わせての計算でないと説得力がない。比較のために建替え時期を合わせているのであれば、各施設の残存価値を考慮した計算方法をとってほしい。

- ・ 平成 35 年に建替えを行うと仮定して縮減額を算定しているということだが、実際にそれぞれの施設の建替え時期に合わせての計算でないと説得力がない。各施設の残存価値から計算をする方法をとってほしい。

A案、A'案は、東部保育園の移転を東部エリア内にするか、他のエリアにするかだけの違いであるのに、なぜ 15 億円近くも差ができるのだろうか。費用の内訳をもう少し詳細に確認しないと納得できず作為的に感じてしまう。また、評価結果点数表をみると、将来負担に関する項目は 25%の重みづけのようだが、ここまでの重みにする必要性がよくわからない。

- ・ 東部保育園の移転を東部エリア内にするか、他のエリアに移転するかだけの違いである、A案、A'案の縮減額がなぜ 15 億円近くも異なるのか。A案の府相保育園と東部保育園を集約して面積を2割縮小し、保育園の人件費、運営費に差がつくとしても、こんなに異なるものなのか。納得はできない。作為的に感じてしまう。
- ・ 評価結果点数表をみると、将来負担に関する項目は 25%の重みづけのようだが、説明をきいてもここまでの重みにする必要性がよくわからない。また、費用縮減額の資料が出てはいるが、その内訳をもう少し詳細に確認しないと「何十億減ったからこちらが良い」と簡単に納得はできない。作為的に思ってしまう。

小学校の統合案には劣るもののC案、D案でも、現状との比較では将来負担は縮減されている。将来の人口予測がつかない上に、市の推計でも 30 年後に 12 クラスを維持できる見込みとなっているなかで安易に統合を進めるのではなく、統合しない案を前向きに検討してもよいのではないか。

- ・ C案、D案でも統合案には劣るが、現状との比較で縮減はされている。将来の人口予測がつかない上で、安易に統合案を進めるのではなく、現状維持をもっと前向きに検討してもよいのではないか。
- ・ 南部小、竹島小地区は、人口が減少しない可能性もあるし、市の報告では 30 年後でも 12 クラスが維持できる予測になっている。12 クラスが維持できる見込みがある期間は統合をしないで現状維持でもよいと思う。

C案とD案は、児童数が減少することが予測され、また、L C C（ライフサイクルコスト）の縮減効果からも、妥当な案ではないのではないか。

- ・ C案とD案は、L C C縮減の観点からも削減につながらないので妥当な案とは思えない。案として候補に挙げることで自体がふさわしいとは思えない。
- ・ 将来的に児童減少が見込まれているのであれば、先延ばしにするのではなく、将来負担を考えても、より経費縮減できる統合案を検討していくことも必要である。

コスト面で考えると、小学校・保育園・児童館の機能が集合されていたり、小学校を統合した方がメリットがあるであろう。

- ・ 小学校・保育園・児童館が機能的にまとまっていた方がコスト的にもメリットがあるのではないか。
- ・ 竹島小学校と南部小学校は比較的距離も近いので、コスト的な面で考えても統合を前提としないとメリットが得られない。

保育園の給食は原則自園式だが、現在は南部保育園のみである。今後、低年齢児保育（0～2歳）の需要を踏まえて受け入れを増やすのであれば、自園式が不可欠になってくるだろう。その場合は、コストも多少増えるのではないか。

- ・ 保育園の給食は原則自園式だが、現在は南部保育園のみで、他の園は外部調理となっている。今後、低年齢児保育（０～２歳）の需要を踏まえて受け入れを増やしていく場合には自園式が不可欠になってくる。自園式が増えればコストも多少増えるのではないか。

2. 再配置プラン案に対する意見

ダッシュ案は前回の案の改良案になっていることから、A案、B案、D案を外して、A'案、B'案、D'案だけに絞り込んでよいのではないか。

- ・ ダッシュ案は前回の案の改良案になっていることから、A案、B案、D案を外して、A'案、B'案、D'案だけに絞り込んでよい。個別にいうと、A'案は東部保育園を東部地区でまとめる方が適当だと考えて、B'案、D'案は小江公民館の扱いについて地域への譲渡を含めた検討する方が適当であると考えているため、ダッシュ案に絞るのでよいと思う。
- ・ 現段階ではA'案がベターである。ただし、施設の配置のバランスを考慮するとB案の方が優れている。

A案、A'案についてだが、南部小学校に竹島小学校を統合した後の跡地には、府相公民館よりも大きい全市的な施設としての公民館機能を配置するとともに、グラウンドなどの機能も残してほしい。

- ・ 南部小学校に竹島小学校を統合したあとの跡地には、府相公民館よりも大きく全市的な施設としての公民館機能を配置するとともに、グラウンドなどの機能も残してほしい。

東部地域には児童館もない。その上、東部保育園が別エリアに移転してしまったら、子育て層がますます魅力を感じない地域になってしまう。A案以外の東部小学校、東部保育園、東部公民館、児童クラブ機能を集約するという案は、子育て層にとっては利用しやすく良い影響を与えらると思う。東部地域の立場で考えると、A案は避けてほしい。

- ・ 東部地域には児童館もない上に、東部保育園が別エリアに移転してしまったら、子育て層がますます魅力を感じない地域になってしまう。東部小学校、東部保育園、東部公民館、児童クラブ機能を集約するというA案以外の案は、配置を工夫すれば、子育て層にとっては利用しやすく良い影響を与えらると思う。東部地域の立場で考えると、A案は避けてほしい。

B案、B'案、C案のように、南部保育園に府相保育園の機能を集合する際は、増築を前提にしているとのことだが、スペースに余裕がないために新築が必要になってくるのではないか。

- ・ 南部保育園に府相保育園の機能を集合する場合の想定として、LCCの試算上では増築を前提にしているとのことだが、スペースに余裕がないために新築が必要になってくるのではないかな。

C案は、道路環境が悪い南部小学校敷地に府相保育園を移転する案になっている上に、評価結果の点数の合計値が低く総合的に評価も低いため、比較案から外してもよいのではないかな。

- ・ C案は、道路環境が悪い南部小学校敷地に府相保育園を移転する案になっているうえ、評価結果の点数の合計値が低く総合的に評価も低いため、比較案から外してもよい。

東部地域が保・小・公の機能を一か所にまとめる案があるのであれば、南部小、竹島小地区も同様の案で進める方が、地区のまとまりが維持されて良い。

- ・ 東部地域が保・小・公の機能を一か所にまとめる案があるのであれば、南部小、竹島小地区も同様の案で進める方が、地区のまとまりが維持されて良い。

3. その他（評価方法など）

＜評価方法について＞

「○」は現状維持と一長一短の2つの意味があるが、一長一短はマイナスの影響も生じているので、現状維持とは明らかに意味が異なる。これを同じ評価とするのは違和感がある。一長一短の評価での「○」は、「△」とし、現状より低下の「△」は「×」としてほしい。見ただ目でごまかさないでほしい。

- ・ 一長一短の評価での「○」は、「△」と評価してほしい。現状維持の「○」とは一緒にしないでほしい。また、現在の「△」は、現状より低下なので「×」とするべきである。見ただ目でごまかさないでほしい。
- ・ 「○」は現状維持と一長一短の2つの意味があるが、一長一短はマイナスの影響も生じているので、現状維持とは明らかに意味が異なる。これを同じ評価とするのは違和感がある。

＜小学校の統合について＞

小学校の統合については、ワークショップとして結論が出せないのではないかな。これまでのように「もし、〇〇小学校側に移転した場合は…」で話し合う程度にしたい。

- ・ 小学校の統合については、ワークショップとして、もしくは少なくともこちらのグループとしては結論が出せない。これまでのように「もし、〇〇小学校側に移転した場合は…」で話し合う程度にしたい。

＜再編の考え方について＞

公共施設の再編については蒲郡南地区だけでなく、もう少し広域で考える必

要がある。例えば、将来負担の縮減の視点で見ると、中部中学校と蒲郡中学校の統合を検討してもよいと思う。また、財政負担を抑えるために、今回の検討の対象外ではあるものの、市民病院の運営のあり方を見直すことが必要だ。

- ・ 今回の対象地域を超えてしまうが、将来負担の縮減を長期的に考えるならば中部中学校と蒲郡中学校の統合という再編案も検討するべきではなかろうか。
- ・ 市全体の財政から考えた場合、今回の議論の対象ではないが、市民病院の運営のあり方を見直した方が効果が大きい。今後は、名古屋市立大学との連携による運営体制などを検討するべきである。
- ・ 蒲郡南地区だけで考えるのではなく、隣接する地区の状況を含めてもう少し広域で考える必要がある。三谷地区の検討の状況など、隣接する地域の関連情報なども参考に提供してほしい。

将来的に蒲郡公民館は、南部小学校に複合化される案になっているが、中部中地区の方も利用していることを考えると、利便性から蒲郡中学校に複合化することを検討してもよいのではないか。

- ・ 蒲郡公民館は将来的に南部小学校に複合化される案になっているが、中部中地区の方も利用していることを考えると、利便性から蒲郡中学校に複合化することも検討してもよいのではないか。

例えば最近では、市外の高校に通う子どもも多く、市内の3高校への進学が当たり前だった時代とは違ってきている。また、保育園の通園バスを導入して距離的な負担を補うことはできるが、共働き世代の場合、帰りの時間がバラバラのため、効果は限定的かも知れない。公共施設の再編については、将来のニーズやライフスタイルを十分に考慮して議論する必要がある。

- ・ 保育園にもスクールバスを運行することで、通園や送迎に関する距離的な負担を補うことはできる。ただし、保育園の場合は共働きが多く、帰りのお迎えの時間帯がバラバラになるためスクールバスを運行しても、効果があるのは行きだけになってしまう。
- ・ 最近では、高校の進学の際に市外の私立高校を選ぶ子どもが増えていると聞く。市内の3つの高校への進学が当たり前であった時代とは変わりつつある。中長期的な視点から、こうした将来的なニーズやライフスタイルの変化も想定して議論する必要がある。

＜府相保育園の考え方について＞

府相保育園の早急な移転は急務であり、それが実現できない案を選択することは難しい。府相保育園を早急に、より良い条件の移転をするために、現在の案にこだわらず他にどんな可能性があるのか、引き続き検討してもよいのではないか。

例) ① 蒲郡中学校に移転

② 給食センター跡地に移転

③ 地区内にある公園や市が所有する空き地への移転

④ 南部保育園の２階にあるがまごおり児童館を府相公民館と合わせて竹島小学校内に複合化。２階の空いたスペースを活用し、府相保育園と南部保育園を統合

- ・ 府相保育園の早急な移転は急務であり、それが実現できない案を選択することは難しい。府相保育園が早急により良い移転をするためには、他にどんな可能性があるかを、引き続きに検討してもよいのではないか。例えば、①蒲郡中学校に移転、②給食センター跡地に移転、③地区内にある公園や市が所有する空き地への移転、④南部保育園の２階にあるがまごおり児童館を府相公民館と合わせて竹島小学校内に複合化。２階の空いたスペースを活用し、府相保育園と南部保育園を統合する、などによって「○」となっているＡ、Ａ'、Ｄ、Ｄ'案でも速やかな移転をすることができないだろうか。実現可能な代案も含めて検討したい。